

災害時の“食べる支援”における 多職種連携とその目的

日時：平成29年9月16日(土)
18:00～20:00(開場17:40)

参加
無料

申込
不要

資格
不問

会場：東京医科歯科大学 1号館 7階 口腔保健学科第3講義室

* 1号館の入口は、湯島門(正門)そばです。御茶ノ水駅側のお茶の水門からお入りになると、学内をほとんど通り抜けるようになります。学内の案内板をご参照ください。1号館入ってすぐのエレベーターで7階にあがってください。座席は先着80名です。

対象：災害時の“食べる支援”に関わる可能性のある方々どなたでも

話題提供：熊本地震の歯科支援の経験を地域に活かす

多職種協働に向けての取り組み
～地域から災害支援を見据えて～
後藤大(歯科医師, 宮崎県歯科医師会,
ごとう歯科医院)

一開業医として災害支援や地域にでて改めて気付いた、多職種協働について感じたこと、他団体とのこれまでの連携や、事例、今後の課題を交え報告させていただきたい。

災害時における食を支えるチームの役割
～歯科と言語聴覚士の協働からみえてきたもの～
横山茂幹(言語聴覚士, 宮崎JRAT,
日南市立中部病院リハビリテーション科)

平成28年熊本地震では、災害支援活動を歯科医師とともに実施した。今般、①実際の支援活動における食を支えるチームの役割、②宮崎JRATにおける受援者側の研修報告(宮崎県に地震がきた際の備え)、③平時からの地域連携(Mind to mind)の重要性について再考する。

これからの災害時歯科支援 ～フレイル予防として～

中久木康一(歯科医師, 日本歯科医師会熊本地震災害歯科コーディネーター, 東京医科歯科大学)

要介護高齢者などの要配慮者においては、災害後の整わない環境下でも口腔衛生管理が継続されないと、口腔感染症、そして誤嚥性肺炎の発症リスクが高くなると考えられ、災害時の歯科支援として口腔ケア活動が行われるようになっている。経験を踏まえ、これからの目的や体制はどうあるべきか、提起する。

Discussion: これからの“食べる支援”における連携に向けて

指定発言:

佐藤保(歯科医師, 日本歯科医師会),
久保山裕子(歯科衛生士, 日本歯科衛生士会),
長優子(歯科衛生士, 全国行政歯科技術職連絡会),
門井謙典(歯科医師, 兵庫医科大学歯科口腔外科),
駒形朋子(看護師, 東京医科歯科大学共同災害看護学),
笠岡(坪山)宜代(管理栄養士, JDA-DAT), ほか

問い合わせ: 中久木 康一 nakakuki@biglobe.jp

主催: 日本災害時公衆衛生歯科研究会
後援: 宮崎県歯科医師会, 宮崎JRAT,
女川歯科保健チーム, 歯科保健研究会

